

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4070701760		
法人名	社会福祉法人 倫尚会		
事業所名	グループホーム 倫尚園		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区馬場山東3丁目11-1 (電話) 093-619-0230		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6,75 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	
	4 階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300,000円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐々木病院・住田病院・かじわら歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人倫尚会が運営する高齢者複合施設「ウェル馬場山」の1階に、グループホーム倫尚園はある。「ウェル馬場山」として、地域密着の開かれた、安心の高齢者複合施設を目指しており、2階は地域交流の場として介護予防事業を展開するなど、日々、地域の方々の来訪がある。ホームの入居者は、この複合施設の中を自由に行き来することができ、複合施設全体の大規模な各種行事にも参加できるようになっている。職員はホームの中で家庭的な雰囲気を大切に、日当たりの良いところに畳やタンスを置き、和の空間を創り出したり、昔懐かしい、赤のダイヤル電話などをさりげなく配置するなど、雰囲気づくりに工夫している。日々、管理者・職員が一丸となってケアやサービス提供に取り組み、常に入居者のためにどうすれば良いのかと考えながら支援しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価は会議にて報告を行い、職員全員がいつでも確認できるようにしている。介護記録とケアプランの連動を図るためにカードックスを活用した取り組みが行われており、継続しての取り組みとなる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価作成にあたっては、職員に意見を聞きながら管理者によってまとめられている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>定期的に2ヶ月に1回、会議を開催している。会議中に長谷川式スケールについての質問があり、次回の会議にて勉強会を行うなど、会議出席者への認知症に関する理解を育む機会となっている。今後も会議での意見や助言を活かした運営を行なっていきたいと考えている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>意見箱の設置等を行なっているが、相談や意見は直接職員に話してもらえるように、コミュニケーションの機会を大切にしている。意見をいただいた場合は、管理者・職員で話し合うなどの対応を迅速に行い、申し出てくれた家族などに説明をきちんと行い、納得していただけるように取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>高齢者複合施設「ウェル馬場山」として地域連携に取り組んでいる。地域の方とは長い付き合いがあり、飾らない自然な交流を行っている。地域行事・施設行事に相互に参加できる関係も築いている。また、近隣のコンビニエンスストアは、出前売店として来てくれたり、パン屋さんは出入りしやすい場所から入れてくれたりや便宜を図っていただいている。小学校との交流なども継続して行われており、日常的に地域との交流が活発に行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人として、また高齢者複合施設「ウェル馬場山」として、地域密着の開かれた運営を目指しており、積極的な活動が行なわれている。グループホームとしても、基本理念・基本姿勢を具体的に掲げており、独自の理念がつけられている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	目に付きやすい場所に理念を掲示し、常に意識するよう努めている。年度始めには、毎年必ず理念についてふれ、職員の再認識を促している。また毎月の勉強会の中でも、具体的事例提示や、基本理念・基本姿勢を全職員に配布し、浸透・共有を図っている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入し、地域行事・校区内活動に積極的に取り組んでいる。4年前から隣接する団地の公園整備(年6回の草刈り・花壇作り等)を引き受け、近所の方々との交流の場となっている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	昨年の評価については運営推進会議で報告を行い、常に評価結果を閲覧できるようにしている。自己評価作成にあたっては、職員に意見を聞きながら管理者によってまとめられている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期的に2ヶ月に1回、会議を開催している。会議中に長谷川式スケールについての質問があり、次回の会議にて勉強会を行うなど、会議出席者への認知症に関する理解を育む機会となっている。今後も会議でいただいた意見を活かした運営を行なっていきたいと考えている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 倫尚園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域包括支援センターとの連携が中心となっている。法人で介護予防事業も受け入れており場所の提供をしている。毎月、介護相談員を受け入れている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して、法人での研修や外部研修にも参加しており、職員は理解できていると考えている。現在、制度を活用している方もおり、パンフレット等、資料も準備している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	法人として、定期的に広報誌「りんりん便り」を年4回発行している。通信には季節の行事などが写真付きで見ることができ、楽しそうな入居者の表情を見ることができる。家族の来訪時には、生活状況や身体状況・金銭出納などを確認していただいている。遠方の家族には手紙を郵送している。行事などに家族の参加も多く、協力関係を築いている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	意見箱の設置等を行なっているが、相談や意見は直接職員に話してもらえるように、コミュニケーションの機会を大切にしている。意見をいただいた場合は、管理者・職員で話し合うなどの対応を迅速に行い、申し出てくれた家族などに説明をきちんと行い、納得していただけるように取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	法人としての異動が行われることもあるが、入居者へのダメージを考慮しサポート体制を築きながら、なじみの関係に配慮されたマンツーマンでの対応を心がけている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人としての募集となり、性別や年齢は採用基準にならなならず、介護福祉士の資格(専門性)が現在の募集の条件となっている。法人として、資格取得についても支援する体制があり、勉強会の実施や、勤務調整によりバックアップしている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 倫尚園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人として毎年人権研修を行っており、またホームとしても勉強会で人権については取り上げている。高齢者虐待防止や身体拘束についても、法人として、またホームとしての取り組みがあり、意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人として職員研修と共に、外部への研修も受講できるように取り組んでいる。研修時の費用は法人が負担しており、職員が研修を受講できる環境を整えている。新人研修は法人で行い、中堅以上は外部研修へ参加できるように取り組んでいる。疾患・感染症・接遇などの勉強会や、お寺の住職や消防などの外部講師を招いての研修など、積極的に職員がスキルアップを図ることができるように取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	今年度は、管理者の交代があり、情報交換など同業者との交流を行いたい意向はあったが課題として残っている。今後は、地域包括支援センターなどと相談しながら、同業者間の連携を高めていくことが期待される。		地域包括支援センター等との連携も行ないながら、他事業所とのネットワークづくり等に、ぜひともリーダーシップを発揮して欲しい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	居宅からの入居の場合は、自宅訪問を行い、生活状況などを把握するように努めており、体験入居にも対応しており、利用期間は個々に応じて1週間程度は可能となっている。入居後も家族の協力を得ながら、少しでも早くホームになじんでいただけるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	「共に生活する」ことを大切に考えており、入居者から様々な生活の知恵をいただいております。漬け物の漬け方や野菜の育て方等、教えてもらうことも多い。入居者と職員のコミュニケーションが中々取れない場面があったが、入居者の「大丈夫」と慰めてくれる一言に救われるなど、共に理解を育みながら、支えあう暮らしを職員は理解し支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 倫尚園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居前の面接で本人や家族から生活歴などを聞き、入居者の状況を把握している。趣味などは、これまでの暮らしと同様に楽しんでいただくように支援している。今後はアセスメント情報の更新が望まれる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	包括的自立支援プログラムを活用してアセスメントを行っている。本人・家族の意見を大切に、希望や意向をケアプランに反映させている。ケア会議では、「入居者本位」を基本として、詳細に話し合っていることが確認できる。今年3月より取り組んできた書類整備が効果的に活用されている。		サービス担当者会議やモニタリング書類等に、かかりつけ医やホーム主治医等の意見や指示を記録していくことが望まれる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	半年に1回の見直しを行っている。状況に変化があった場合は、生活支援記録を反映させた見直しを行う等、現状に即した計画作成に努めている。昨年度からの取り組みとして、介護計画と介護記録のファイリングの工夫がなされており、記録がしやすくなっている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の希望で外出や受診の介助を行っており、家族の負担軽減に努めている。複合施設としての利点を十分に活かし、各サービスの連携により、行事(クリスマス・夏祭りなど多彩)と一緒に参加することができる。法人として、ホームだけが地域密着型ではなく、ウェル馬場山全体が地域密着型と捉えており、特養や養護老人ホームと共に、地域の方とふれあう機会を設定している。多くの方々とふれあいにより、入居者の楽しみも更に広がるものと考えられる。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居時に希望を確認し、かかりつけ医との「個別受診経過記録」を作成している。在宅医療を活用し、2週間に1回の内科医往診、また皮膚科・眼科・泌尿器科・歯科等の往診があり、薬剤師からの投薬説明等、適切な健康管理体制の整備が行なわれている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 倫尚園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	終末期のケア方針は無く、対応は困難であるが、重度化に伴ない在宅医療を活用し、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、体制を整備している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	「自己尊厳を保ち安心した生活が保障される事」と理念の中で謳っており、言葉かけや対応等に常に配慮するよう努めている。入居者の誇りについては勉強会でも取り上げており、今後も継続して意識を高めるよう取り組んで行く意向である。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	施設全体で行なわれる体操の時間や、食事の時間が決められているが、それ以外は一人ひとりの状況や生活リズムにあわせた支援に努めている。常に寄り添うケアから、必要な時に寄り添うケアへと転換しており、自己決定を引き出せるよう取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理は厨房で行なわれ、ホームでの配膳となり、盛り付けや洗い物を手伝ってもらっている。畑でできた収穫物は、床漬けにしたり、おやつを作ったり、入居者・職員で相談しながら、ホームで楽しみながら調理をする機会を作っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	24時間対応できる入浴設備を備えている。栓の壁や手すり、温泉のような雰囲気を出している。個浴での対応や、仲の良い方同士で入浴する事もあり、希望に応じて対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 倫尚園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	糠床の管理やお茶の担当、配膳や茶碗洗いを手伝っていただいている。2週間に1回、近隣のコンビニエンスストアの出前出店があり、買物を楽しみにしている。注文で配達サービスも行ってくれるため、ありがたい地域支援のひとつである。入居者の生活暦を把握することで、これからも役割や楽しみを増やしていきたいと考えている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホーム前の公園や近所のパン屋さんなどに、散歩をかねて出かけている。併設施設の友人や家族の部屋に行き来するなど、行動範囲は広い。敷地内にはファームやガーデンがあり、戸外に出やすい環境にある。個別対応を中心とした外出支援を、できる限り行っていきたいと考えている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	大通りに面している事やシステム上、ホームの東口玄関のみ施錠しており、他の出入り口はいつも開放している。各居室は内側から施錠する事が可能であり、就寝時に施錠する方もいる。夜間はプライバシーに配慮しながら、マスターキーで安全確認を行なっている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	福祉複合施設「ウェル馬場山」として防災訓練を行っている。夜間を想定しての訓練も行い、地域の方々の参加・協力も継続して行なわれている。ホームとしての食料(乾パンなど)も備蓄しており、災害時には対応できるように日ごろから取り組んでいる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	施設全体の調理は厨房で行っており、栄養士により献立が作成されている。刻み食やとろみ食、ミキサー食や治療食(塩分制限など) 対応している。水分摂取量は、1日1200mlと目標を定めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 倫尚園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	日当たりのよい談話コーナーに、畳を敷き、タンスやテーブルを置くことで、寛ぎ空間が生まれている。冬には炬燵を置く予定としており、和みのある空間づくりに工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	部屋の入り口には、名前プレートや暖簾などが飾られ、室内には、ベッド、テーブル、椅子、クローゼットが備えられており、自宅で利用していた筆筒やテレビ、家族の写真や絵画などが持ち込まれている。ベッドの向きやTVの位置など、自宅の生活様式をそのまま部屋で再現している方もいる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			